

宣べ伝える人がいなければ

ローマ人への手紙 10章 8-17節

はじめに

私たちの教会では、毎月テーマを決めています。そして毎月、第一週の礼拝の説教では、その月のテーマに従ってお話しています。10月のテーマは、「伝道」となっています。

コロナ渦の中で約五か月間、教会堂で礼拝を行えなかったため、教会としての伝道活動は一切できませんでした。しかし今日から、教会堂での礼拝も再開したので、少しずつ伝道活動も再開していけたらと思っています。私たちの教会は、この地域に建てられている以上、この周辺の地域に福音を宣べ伝える使命があります。私たちは、先に福音を聞き、信じた者として、神様からその福音を委ねられ、宣べ伝える使命を与えられています。

今日は、ローマ人への手紙から改めて「伝道」について考えてみたいと思います。

1. 救われる必要性

「伝道」とは、キリスト教の中心メッセージである「福音」を人々に宣べ伝え、人々を救いに導くことと言えます。つまり伝道は、人々を救いに導くことです。そこで前提となっていることは、人々は救われなければならないということです。つまり人々は、伝道され、イエス様を信じなければ、滅びに向かってしまうということです。

私たちは、伝道において、人々がイエス様を救い主と信じるのが大切だと思っています。しかし、イエス様を救い主と信じる前に、もう一つ別の真理を信じなければならないと思います。それは、イエス様を救い主と信じなければ、誰も救われないということです。使徒ペテロは、イエス様についてこう言いました。「**この方以外には、だれによっても救いはありません。天の下でこの御名のほかに、私たちが救われるべき名は与えられていないからです**」（使徒 4: 12）。

聖書によれば、人類最初の人であるアダムが神様の命令に背いて、禁断の木の實を食べた時から、全人類が墮落し、罪と悲惨の中に生まれてくるのです。すべての人は、生まれながらに神様との交わりを失い、罪の性質を持ち、人生においてあらゆる罪を重ねていきます。そして神様の怒りと呪いの下にあり、人生におけるあらゆる悲惨と死と永遠の地獄の刑罰を受けなければなりません。これが、聖書が教える生まれながらのすべての人間の状態なのです。つまり聖書は、すべての人が救われる必要があると言うのです。生まれながらのままでは、すべての人は滅びに向かってしまうと言うのです。

しかし、現代の多くの方は、そもそも救われる必要性を感じていません。なぜなら、天地の造り主である主なる神様を信じていませんし、自分には罪があること、このままでは滅び

に向かってしまうことを信じていないからです。多くの人は、自分はそこそ良い人間で、極悪人ではないので、死んだら天国に行けると思っています。人々は、救われる必要性を感じていないので、イエス様を信じる必要性も感じないのです。

伝道をする時に大切なのは、イエス様を信じることはもちろんですが、その前にイエス様を救い主と信じなければ、誰も救われないうこと、滅びに向かって行くということを感じるといことだと思えます。そのことを、伝道する人も、伝道される人もはっきりと信じる時に、伝道は始まっていくのだと思えます。

2. どうしたら救われるか

今日の聖書箇所では、どうしたら人は救われるのかということが書かれています。現代の多くの人は、そもそも救われる必要性を感じていないのですが、当時のユダヤ人たちは救われる必要性を感じていました。しかし彼らは、行いによって救われると信じていました。神様の律法を忠実に守ることで救われると信じていたのです。しかし使徒パウロは、行いによっては誰も救われないう、神様の律法を守ることによって救われないう言うのです。

パウロが説いたのは、信仰によって救われるということでした。9-13節にはこうあります。「もしあなたの口でイエスを主と告白し、あなたの心で神はイエスを死者の中からよみがえらせたと信じるなら、あなたは救われるからです。人は心に信じて義と認められ、口で告白して救われるのです。聖書はこう言っています。『この方に信頼する者は、だれも失望させられることがない』ユダヤ人とギリシア人の区別はありません。同じ主がすべての人の主であり、ご自分を呼び求めるすべての人に豊かに恵みをお与えになるからです。『主の御名を呼び求める者はみな救われる』のです」。

人は、神様の前に自分で罪を償えないのです。自分で償って救われることはできないのです。私たちの罪は、私たちが思うよりも遥かに大きいからです。神様は、真の神であり、真の人であるイエス様をこの世に遣わし、イエス様に私たちの罪を償わせました。それがイエス様の十字架の死です。イエス様は、神様からの使命に完全に従い、私たちの罪の罰を十字架で受け、私たちの罪を完全に償ってくださいました。そして、イエス様による私たちの罪の償いが、神様に完全に受け入れられたことの証しとして、神様はイエス様を死からよみがえらせ、神の子であることを示されました。

私たちは、自分の救いのために何もできないのです。私たちは、神様とイエス様がしてくださったことを信じて、受け入れることしかできないのです。これが、私たちが救われる唯一の道です。

パウロは、心で信じることと、口で告白する時に、私たちは救われると言います。心では、神様はイエス様を死者の中からよみがえらせたと信じる必要があります。口では、イエス様は主であると告白する必要があります。イエス様は神の子であり、私たちの罪を完全に償ってくださいました救い主であると心で信じ、口で告白する時に、私たちは救われるのです。

私たちは、心で信じるだけではいけません。心の中で信じている信仰を、自分の口で公に告白しなければなりません。また私たちは、口で告白するだけでもいけません。口で告白し

ても、心で信じていない場合があるからです。私たちは、心の中でしっかりと信仰を持つことと、その信仰を口に出して言葉にすることが必要なのです。

イエス様を心に信じて口で告白する、そうすればどんな人でも救われるのです。ユダヤ人でもギリシア人でも区別はありません。どんな人生を歩んできた人でも区別はありません。決意と覚悟があれば、誰でも救われるのです。どんな修行も努力も、長い時間も必要ありません。信じる決意と覚悟さえあれば、その場で救われるのです。確かな信仰があれば、その人の生き方は自ずと変わっていきます。信じるものが変われば、生き方も自ずと変わっていくのです。ですから良い行いは必要ありません。良い人間でなくても構いません。ただしっかりとイエス様を神の子と心で信じて、その信じた内容を自分の口で公に言葉にすることです。そうすれば、どんな人でも救われるのです。

3. 神の伝道方法

14-15 節には、人が一人救われるためには、どんなプロセスを辿るのかということが書かれています。「**信じたことのない方を、どのようにして呼び求めるのでしょうか。聞いたことのない方を、どのように信じるのでしょうか。宣べ伝える人がいなければ、どのようにして聞くのでしょうか。遣わされることがなければ、どのようにして宣べ伝えるのでしょうか。『なんと美しいことか、良い知らせを伝える人たちの足は』と書いているようにです。**

人が一人救われるためには、まず神様が人を遣わします。そして遣わされた人が福音を宣べ伝えます。そして福音を宣べ伝えられた人が福音を聞きます。そして福音を宣べ伝えられた人が福音を心で信じます。そして最後に福音を宣べ伝えられた人が信仰を口で告白します。これが、人が一人救われるために、神様が用いられる通常のプロセスです。

ここから分かることは、人の救いは神様からスタートするということです。神様が人を遣わすところから、人の救いは始まるのです。神様が人を遣わし、人が人に福音を伝え、信仰が生まれ、救いが起こるのです。その意味で、人の救いは神様の御業だと言えます。人が神様を求めて救いが起こるのではなく、神様が人を求めて救いが起こるのです。イエス様も、「**あなたがたがわたしを選んだのではなく、わたしがあなたがたを選び、あなたがたを任命しました**」(ヨハネ 15:16)と言われたとおりです。

もう一つは、神様は人の救いのために、人を用いられるということです。神様は、直接ご自身で人を救いに導くのではなく、人を遣わして、人を通して人を救いに導かれるのです。そしてさらに、神様は人の救いのために、言葉を用いられるのです。神様は、奇蹟などで人を救いに導くのではなく、言葉を用い、言葉への信仰、言葉の告白を求められるのです。Ⅱコリント 5:18-20 で、パウロはこう言っています。「**これらのことはすべて、神から出ています。神は、キリストによって私たちをご自分と和解させ、また、和解の務めを私たちに与えてくださいました。すなわち、神はキリストにあって、この世をご自分と和解させ、背きの責任を人々に負わず、和解のことばを私たちに委ねられました。こういうわけで、神が私たちを通して勤めておられるのですから、私たちはキリストに代わる使節なのです。私たちはキリストに代わって願います。神と和解**

させていだきなさい」。神様は、人を用いて、人が語る福音の言葉を通して、人を救いに導かれるのです。そして神様は、人を通して、救いを受け入れるように懇願しておられるのです。

おわりに

神様が伝道に用いられる通常のプロセスの中で、私たち教会の責任は、神様に遣わされ、人々に福音を宣べ伝えることです。神様は教会を遣わされます。今日の聖書箇所のコロサ10章の最後、21節にはこうあります。「**わたしは終日、手を差し伸べた。不従順で反抗する民に対して**」。神様は「不従順で反抗する民に対して」「終日、手を差し伸べて」いるのです。神様は、人々の救いを願っておられます。そして、そのために人を遣わそうとされます。神様は預言者イザヤに向かって、「**だれを、わたしは遣わそう。だれが、われわれのために行くだろうか**」と言われました。その時、イザヤはこう答えます。「**ここに私がおります。私を遣わしてください**」(イザヤ6:8)。神様は、ご自身の手となり足となり、また口となってご自身の福音の言葉を語る人を求めておられるのです。

しかし今日の聖書箇所のコロ16-17節を見ると、このようにあります。「**しかし、すべての人が福音に従ったわけではありません。『主よ。私たちが聞いたことを、だれが信じたか』とイザヤは言っています。ですから、信仰は聞くことから始まります。聞くことは、キリストについてのことばを通して実現するのです**」。神様が人を遣わし、人が人に福音の言葉を語る時、すべての人が聞いてくれるわけではありません。すべての人が信じるわけではありません。

人が福音の言葉を聞くか、信じるかは、福音を聞いた人の責任なのです。私たち教会の責任は、神様に遣わされ、人々に福音を宣べ伝えることです。その福音を聞くか、信じるかは、私たち教会の責任ではありません。それは、福音を聞いた人の責任です。福音を聞いた人は、それを聞いたか、信じたかを神様の前に問われるのです。

私たち教会にできることは、神様に遣わされていることを確信し、一人でも多くの人に福音を宣べ伝えることです。福音を聞いた人が信じるか信じないかは、その人の責任であり、神様の恵みによるものです。私たちにはどうすることもできないことです。

15節に、「**なんと美しいことか、良い知らせを伝える人の足は**」とあります。伝道は、足を使うものです。つまり歩いたり、走ったり、出て行かなければなりません。伝道は、教会でただ待っているだけではできないものです。足を使わなければなりません。人のもとに行かなければなりません。足を使う伝道こそ、美しいのです。

ようやく教会堂での礼拝が再開しました。しかし五カ月もの間、私たちは離れて礼拝を守っていました。その意味で、もう一度、初めからやり直すつもりで教会を建て直さなければなりません。その意味で、伝道は不可欠です。教会は伝道から生まれたのです。

この地域のすべての人に福音を宣べ伝えるのは、私たちの教会の責任です。神様は、私たちを通して、人々に救いの手を差し伸べておられるのです。

天におられる私たちの父なる神様。

私たちは、生まれながらに罪と悲慘の中にあり、神様の怒りと呪いの対象であり、希望のない者でした。しかしあなたがイエス様を遣わし、イエス様が私たちの罪の償いをすべて成し遂げてくださいました。あなたが私たちに求めておられるのは、信仰と告白だけです。

私たちは今、すでに救われた者として、あなたに遣わされています。あなたは私たちに福音の言葉を委ね、私たちを通して、人々に救いの手を差し伸べています。どうか私たちが委ねられた福音を、余すところなく人々に宣べ伝えていくことができますように。伝道の緊急性と必要性を強く思わせてください。

この祈りを私たちの救い主イエス・キリストの御名によってお祈りします。アーメン。